平成20年度班報告

HLA 遺伝子（phenotype；蛋白レベル）を指標とした癌治療班

研究班代表

福島県立医科大学医学部 外科学第 2　竹之下 誠一

東海大学医学部 消化器外科　生越 喬二

現在まで事務局に登録された症例は表のごとくである。各会員施設のご協力をお願いします。

班研究は、下記の日時に行われた。

① 平成19年11月13日（火）16：00～　都市センターホテル　「松の間」
（平成19年秋季学術講演会）

② 平成20年 6 月25日（水）15：30～　白沙村荘（橋本関雪記念館）　NOANOA 2 階会議室
（第17回研究会）

数量化理論を利用したHLA-oriented therapyと、HLA 抗原のスコアー化による pair-match method によるcustom-tailor made therapyの結果が発表され、今後の custom-tailor made therapy の可能性が報告された。

《参考》

Kyoji Oogoshi, Yasuhisa Koyanagi, Kimiyoshi Tsuji and Kaichi Isono.
Outcome of HLA-oriented therapy for gastric cancer in retrospective and prospective study. Annals of Cancer Research and Therapy. 36-43, 2008　の内容（詳細は原文を参照）。

2000～2001年（H12～13）
日本人の胃癌の発生におけるヘリコバクターピロリ感染と HLA 拘束性に関する研究　　班代表　小柳泰久
日本人の癌の発生、治療応答に関わる遺伝学的要因に関する研究　　班代表　生越喬二

2002～2003年（H14～15）
HLA 遺伝子（phenotype；蛋白レベル）を指標とした癌治療班　　班代表　小柳泰久

2004年～（H16～）
HLA 遺伝子（phenotype；蛋白レベル）を指標とした癌治療班　　班代表　竹之下誠一 、生越喬二

施設名	計	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
東海大学消化器外科	351	14	33	30	37	39	26	50	62	60
対照症例										
東京医科大学第 3 外科	10	0	7	2	1	0	0	0	0	0
対照症例						13	0	0	0	
福島医科大学外科 2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
対照症例										
日本医科大学 1 外科	5	0	0	0	2	1	0	2	0	0
対照症例						2	1			
東京逓信病院外科	11	0	7	4	0	0	0	0	0	0
対照症例				8					3	
兵庫医科大学	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
対照症例										
大分医科大学	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
対照症例										
東京慈恵大学外科	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
対照症例										
坪井病院	5	0	0	0	0	3	1	1	0	0
計	386	14	47	45	42	59	28	53	65	60

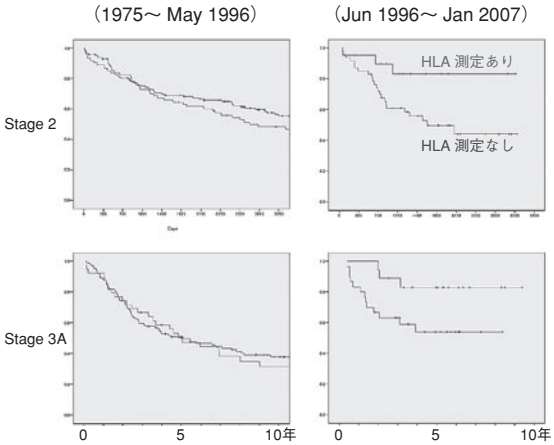

図１　HLA 測定の有無

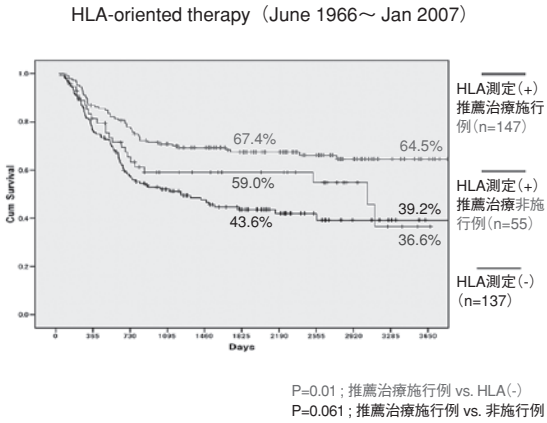

図２　Prospective study

［対象症例］

対象は、術前無治療の胃癌症例で、胃切除術を受けた患者で、1997年から1996年５月までの retrospective study 症例、1932例。1996年６月から2005年８月までの prospective study 症例、582例である。

［治療方針］

HLA　type 1：PSK を併用した化学療法（PSK、FPSK、MFPSK）
HLA　type 2：同上
HLA　type 4：同上
HLA　type 3：化学療法（F、MMC、MF）

HLA を採血し、数量化Ⅲ類で分類し、適切治療として推薦し、患者、担当医の同意のもとで術後１カ月以内に治療を開始する。同意なければ、上記治療法のどれかを選び、治療を開始する。

［結果］

stage 2、および stage 3では、推薦治療に同意し治療を行った患者群と非同意、および HLA 非採血群との間に有意な認められ、HLA-oriented therapy の有用性が示された。HLA-oriented therapy をしていない retrospective study と HLA-oriented therapy を行った今回の prospective study では、stage 2および3A で、HLA 採血群と非採血群との間で有意差が認められた（図１）。

また、1996年６月から2007年１月までに事務局で把握された（臨床データあり）HLA 測定患者は375例で、胃切除のみ、173例、PSK、13例、FPSK、104例、MFPSK、13例、F、53例、MMC、２例、MF、17例で、そのうち、推薦治療が行われていた患者は147例（72.8%）であった。予後が判明している同時期の、HLA 非採血症例は137例であった。現時点での結果を図２に示す。

［今後の方針］

HLA 抗原のスコアー化と pair-match method による custom-tailor made therapy の可能性があり、福島で開催される、第18回日本癌病態治療研究会で報告するので、多くの会員の先生方のご参加をお願いしたい。